

中島教育長記者会見録

日時/令和7年10月8日（水）

14：00～14：50

場所/別館庁舎7階教育委員会室

【冒頭説明】

- 1 道内教員の盗撮事件について
- 2 高校生による「探究コンテスト2025～SNSトラブルの被害者にも加害者にもならないために～」受賞作品の決定について
- 3 さんフェア2025「北海道農業高校収穫祭」について

【記者からの質問】

- 1 道内教員の盗撮事件について（TVh）
- 2 道内教員の盗撮事件について（毎日新聞）
- 3 道内教員の盗撮事件について（HBC）
- 4 道内教員の盗撮事件について（北海道新聞）
- 5 道内教員の盗撮事件について（u h b）
- 6 道内教員の盗撮事件について（読売新聞）
- 7 道内教員の盗撮事件について（STV）
- 8 道内教員の盗撮事件について（毎日新聞）
- 9 道内教員の盗撮事件について（読売新聞）
- 10 高校生による「探究コンテスト2025～SNSトラブルの被害者にも加害者にもならないために～」について（釧路新聞）
- 11 さんフェア2025「北海道農業高校収穫祭」について（釧路新聞）
- 12 道内教員の盗撮事件について（時事通信）

【教育長からの話題】

今月4日、北海道議会第3回定例会が終了しました。

今回の定例会におきましては、公立高校配置計画ですとか道立高校の在り方、教員の性犯罪等の防止、学校での生成AI、ICTの活用といった議論が数多くなされたところであります。

今回の議会議論を踏まえながら、引き続き、本道における教育の一層の推進に取り組んでまいります。

それでは、私の方から3点、お話をさせていただきます。

【資料なし】

はじめに、教員が盗撮により逮捕された件についてでございます。

名古屋市等の教員グループによる盗撮事案が発覚して以降、全国で盗撮防止に向けた取組が行われていますが、先月17日に道内の教員が当該盗撮グループの一員との疑いで逮捕されたことは、学校教育に対する信頼を著しく損なうものであり、誠に遺憾でございます。

道教委では、6月末に名古屋市等の教員グループによる盗撮事案が発覚したことを受けて、7月4日付けでカメラ等の設置に係る緊急点検や盗撮防止に向けた職員研修の実施などについて通知したところでございます。

また、9月12日付けで私物のスマートフォン等に関して、教室等への原則持込み禁止や児童生徒の撮影の禁止などのルールを定め、道立学校に通知いたしますとともに、市町村教育委員会においてもこの取扱いを参考とするよう依頼したところでございます。こうしたことを含め、教員による児童生徒の盗撮防止に努めてきたところです。

こうした中で、9月17日に千歳市の中学校の教員が逮捕されたことを受けまして、9月19日に緊急の不祥事防止対策会議を開催いたしまして、同日付けで改めて全道の学校施設内の点検を実施するよう通知いたしまして、カメラ等が発見されなかったことを確認したところでございます。

なお、逮捕された教員につきましては、生徒への不適切な身体接触等について、過去に保護者や生徒が学校や教育委員会に相談していたと、当該教員の逮捕後に我々も千歳市教育委員会から報告を受けたところでございまして、今後、詳細な経緯等については、さらに報告をいただいて、事案の分析を行ってまいりたいと考えておりますけれども、懲戒処分が疑われるような事案につきましては、漏れなく道教委に報告していただくよう、道立学校及び市町村教育委員会に対して、9月22日付けで通知させていただいたところでございます。

今後ですけれども、カメラの探知器を導入し学校へ貸し出すとともに、定期的に、又は、不定期に検査を実施するほか、児童生徒や保護者向けの相談窓口や私物のスマートフォン等の取扱いなど、盗撮防止に向けた取組を分かりやすく説明したパンフレットを作成するなどして、児童生徒の盗撮事案の根絶に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

【資料1】

2点目でございます。高校生による「探究コンテスト2025～SNSトラブルの被害者にも加害者にもならないために～」受賞作品についてでございます。

このコンテストには、道立学校24校から127作品の応募をいただきまして、道教委、道の環境生活部、道警察で審査を行った結果、資料にございますとおり、根室高校の5名の3年生が作成した作品「SNSトラブルから身を守る」を最優秀賞として決定したところでございます。

今回、御応募いただいた127作品は、どの作品も、高校生ならではの視点で、SNSに潜む危険性やトラブル防止に向けた対応などを示した優れたものでございましたが、特に、根室高校の作品につきましては、SNSに潜むリスクを的確に捉え、地元の警察署や演劇部の協力を得て学校全体で取り組むなど、非常にオリジナリティの高い作品でございました。

最優秀賞の根室高校の生徒には、明後日、10日になりますが、『安全安心なまちづくりの日』道民の集い」が開催されるのに合わせて、こちらに参加していただいて、発表を行っていただくことを予定しているところでございます。

また、最優秀賞と優秀賞の計4作品につきましては、道内の学校や道警察に提供して、ネットトラブル防止等の取組で活用いただく予定としております。

道教委としては、引き続き、関係機関等と十分に連携して、SNSトラブルの未然防止など、未来ある子どもたちが犯罪に巻き込まれることがないように取り組んでまいりたいと考えております。

【資料2】

それから3つ目でございます。今週土曜日、10月11日ですが、さんフェア2025「北海道農業高校収穫祭」についてでございます。

このイベントは平成17年度から令和6年度まで「農業高校食彩フェア」という名称で実施してきたものでして、今年度から会場をイトーヨーカドーからイオンに移しまして、「農業高校収穫祭」という名称で実施したいと考えております。

内容につきましては、これまで同様、農業を学ぶ生徒が、実習において生産・製造した商品の販売ですとか、実演・体験コーナーで学習の成果を披露するものとなっております。

農業高校の実践について、その教育内容を広く道民の皆様方にPRすることや、生徒一人一人の個性や創造性を発揮できる場をつくって、将来のスペシャリストとしての自覚を持って社会の一員としての資質を養うことなどをねらいとして実施するところでございます。

今回からイオングループの皆様方に協力いただいて、全道のイオン6店舗で開催することとしていまして、全道から農業に関する学習を行う29校が参加して、販売実習等を行うところでございます。

会場では、実習で生産した農畜産物ですとか、食品加工実習で製造した商品の販売を

行いますほか、パン製造などの実演、木工・ドライフラワーアレンジメント作りなどの体験も実施させていただきます。

報道の皆様方におかれましては、事前の周知や当日の取材について御協力をお願いできればと思います。

私からは、以上でございます。

【記者からの質問】

(TVh)

一部報道でもありましたが、緊急点検の前、7月11日に行った点検で、逮捕された柘野容疑者もその点検に参加していたという報道がありましたけども、それは認知されていますでしょうか。

(教育長)

その点につきましては、千歳市教委から、柘野容疑者とそれから他の教員と2名の体制で点検を行ったという報告を受けているところでございます。

(TVh)

道教委は今後も適時で点検を実施するよう指示をされたと思いますけども、ちょっと具体的な内容ですね最低でも何か月の間に何回といったような指示はなかったかなというふうに思います。

実際に最低ラインでどのぐらいのスパンで実施するのか、また、もし盗撮をしている、或いはしようとしている職員がいたとして、点検されない抜け穴を見つけてしまうとか、柘野容疑者のように、点検に参加してしまうといったような可能性も考えられると思うので、点検する人間を限定する又は信頼できる第三者に委託するなど対応されることは考えているのでしょうか。

(教育長)

まず、点検の頻度でございますけれども、学校において、安全点検を学期ごとに実施していただくことにしておりますので、盗撮関係の検査につきましても、定期的なものとしては学期ごとに1回は実施していただくということを指示しているところでございます。

それから点検する人間ですけれども、基本的には管理職を含め複数で対応してもらうということを考えております。

(TVh)

ということは、管理職以外の一般の職員、教員も参加するということでしょうか。

(教育長)

そうですね。学校の実情に応じて、管理職を含め複数でやっていただくということを考えております。

(TVh)

何かこういう事案があつての対応みたいなどころでは特にはないでしょうか。

(教育長)

複数で実施することで、抑止力を高めていきたいと考えております。

それから、先ほどちょっと冒頭申し上げましたけれども、それに加えてですね、そういう探知器により物理的に目視では確認できないようなところでも発見できる手だても導入しながら、しっかりと進めてまいりたいと考えております。

(TVh)

児童生徒や保護者の信頼を失っているというような声が大きく出ているかと思えます。今後、信頼回復のために、先ほど探知器の設置がありましたけれども、そういった対策を引き続き講じていくのか、新たな対策も考えていくのかといったところを教えてくださいましたらと思います。

(教育長)

これはですね先ほど申し上げましたような定期的な点検、不定期の点検を続けていきますし、探知器を使った検査も進めていきます。

それからですね、保護者向けにパンフレットをつくるといったものもありますし、やはり何よりも教職員の意識が一番重要だと考えておりまして、研修の充実も行っていきたいと思っております。

まだ私の個人的な考えで、検討をお願いしているのですがけれども、例えば自動車免許の更新講習で飲酒運転の被害者の方の声や加害者の手記などの紹介による飲酒運転の悲惨さの啓発を警察がやっていますので、例えば被害に遭われたお子さんや保護者の方々の思いを紹介するなどして、しっかり教員が自覚して自分のこととして捉えられるような研修ができないか、内部で検討しているところでございます。

(毎日新聞)

この事件に関連して不適切な身体接触などが以前にあったということについて千歳市教委は把握していて道教委は知らなかったということですが、道教委はいつそれを把握したことになりますか。

(法制・公務管理担当課長)

報道を見て初めて把握したので、19日です。

(毎日新聞)

報道が先行したというところでこういう、懲戒の対象になるような事案として認識されていなかったのかもしれないですけども、いわゆるセクハラ的な行為はより深刻な性犯罪の予兆と言えらると思うのですけれども、まずその身体接触の時点で懲戒処分の対象となりえなかったのかというのが1つと、今回の件を受けて例えば懲戒処分の基準を改めて見直す考えはあるか伺います。

(教育長)

当時、市教委から報告をいただいていたれば、我々もしっかり調査をさせていただいて、その上で、懲戒対象になるかならないかという判断ができ、違った対応があったのかなと思っています。今回も千歳市教委や学校でその先生への指導はしていたようですけども、今回の事案を受けて、そういった懲戒に繋がるようなことがあった場合は、必ず状況を報告いただき、我々も調査をした上で、必要な対応をしていくということを市教委に言わせていただいております。

今回の事案を受けて、処分を見直すかということについては、現在も子どもに対するわいせつ行為についてはかなり重罰を課していると考えておりますので、さらに懲戒のレベルを上げるようなことは、今のところ考えておりません。

(毎日新聞)

9月22日付けの通知で懲戒処分が疑われる事案の情報を各市町村教委から吸い上げられるようにするということだと思っておりますけども、そもそも、なぜ千歳市教委からは報告が上がってなかったのでしょうか。

(教育長)

今後はそういうことのないように積極的に報告を促していきたいと思っておりますし、今回なぜ報告がなかったかについては我々もまだ十分把握できていないので、市教委に確認していきたいと考えております。

(毎日新聞)

道内で逮捕者が出る以前から取組は行っていたと思いますが、名古屋の一連の教員グループの事件のニュースを見て、教育長は、個人的にはどういうふうにとめて、その対策に動こうとされていなかったか。

(教育長)

最初に報道されたのを私どもが見て、一般の方がやってももちろん犯罪ですけども、今回、子どもたちや保護者の信頼を受けて教育という仕事に携わっている教員が、しかもグループで画像を共有したり、撮影をしたりということは非常に腹立たしい、こんなことが絶対許されるものではないというふうに思いました。

(毎日新聞)

新たな取組として機器の導入という話もありましたが、他県ですと、児童生徒や保護者、学校ではない児童保育施設などの関係者への情報提供の呼びかけやアンケートなどの取組もあるというふうに、全国ニュースで出ていますが、そういう、さらなる被害の把握のための対応をする予定はありますか。

(教育長)

我々道教委では、毎年度、体罰などについて実態調査を行って、児童生徒、保護者、教職員に対するアンケートは、もうすでに実施しているところでございまして、令和2年度ですから、5年前からは、そういう不適切な行為についても報告の対象としているということで、そういう対応はしているところでございますし、他にもいろいろ相談窓口もございますので、皆様方の声を受けられるような体制をつくっているところでございます。

(毎日新聞)

すでに、そういう調査があったということですけど、今回の身体接触の話はそこでは拾い上げられなかったということですよ。やはりこれまでと同じやり方だとまた同じ取りこぼしが起きる可能性もあると思いますが、そこについてはどう思いますか。

(教育長)

これまで、懲罰の疑いのある事案について漏れなく報告するよう明確に通知していなかったもので、まずはそういった形で実施させていただいて、状況を見ながら必要な対策をさらに検討しようと考えております。

(毎日新聞)

点検について、毎学期の安全点検とあわせて実施とのお話がさっきあったと思いますが、実効性、抜き打ち性がないと、本当に、カメラの設置を見抜こうという考えがあったとしても、結果に繋がらないのではないかとということと、管理職以外が参加することによって、明日検査するというのが職員に伝わったりするのではないかと思うのですが。

(教育長)

やはり、抜き打ちというのは結構大事な要素だと思っております。あらかじめ何月何日に実施すると言われると、悪意のある方は隠したりすることもあると思うので、それぞれの学校でそうしたことのないような形で検査が実効性のあるものになればと思っていますし、その検査を定期的或いは不定期に行うという行為自体が1つの抑止力になってくれればと期待しております。

(HBC)

今回の柘野容疑者について、2013年に1度、道教委で採用された後に2016年に退職しているというところで、その理由について、道教委は把握されているのでしょうか。

(教育長)

当時の退職については、一身上の都合ということで、我々は承知しております。特に犯罪ですとか不祥事とか、或いは不適切な行為があってそれを理由に退職したというものではないと理解しております。

(HBC)

対策としては点検だったりとかカメラの設置などというものがあると思いますが、そもそも教員としての資質という点が結構大きく関わってくるのではないかなという中で、採用時点でこうした盗撮だったり未成年への不適切な行為などといった素質を見抜くような質問や試験などが現状あるのかどうかという点と、やっぱりそこを見抜く難しさみたいなところがあれば教えてください。

(教育長)

まず、今の仕組み上では、国でデータベースをつくってしまして、性犯罪によって教員免許を失効した方々のリストがあるので、それに適合している人がいないかどうかというところではチェックできますし、この後、国が今、日本版DBSを準備しておりますけれども、それができれば、教員免許とは別に、個人に性犯罪の履歴があるかどうかは我々もチェックできるので、そこは将来的には排除できるのかなと思っています。ただ今まで犯罪を起こしたことがなくて、でもそういう資質がある方をどうやって排除できるのかというところで我々の中でいろいろ検討していて、例えば今おっしゃられたような、この1問を聞けば何か分かったとか、この絵を見てどう思うかというものを書いてもらうとそういう資質の有無が分かるというような検査がないか調べても、なかなかそういうものはなくて、現状ではやはり、採用の面接の際に多角的な質問をする中で、教員としての資質のうち、そういった性犯罪に関わる部分の確認のしようはないのですけれども、教員としての総合的な資格あるなしを面接の中で判断しているという現状でございます。

(北海道新聞)

今の質問に関連しまして、例えば他府県では、わいせつ行為根絶に向けて教職員に自己分析シートなどを配布して、個人的なそういった悩みの相談や治療に取り組む事例もあるようですけれども、例えば教職員のアンケートも含めてですけれども未然防止に繋がるような取り組みが何か具体的にありますでしょうか。

(教育長)

現時点では先ほど申しましたような研修の充実などというところを今進めていこうと思っていますけれども、もちろんこういった対策には終わりはないと思っておりますので、今後も、他府県の動向やいろいろな取組を見ながら、これはというものがあれば、我々も採用してまいりたいと考えております。

(北海道新聞)

冒頭でカメラの探知器のお話がありましたが、具体的にどのような活用を想定しているのかももう少し詳しく教えてください。

(教育長)

値も張るもので各学校に配備するだけの数を確保できないので、今考えているのは、まずは14の教育局に配置して、それぞれ学校に貸し出して検査の際に使ってもらイメージで考えております。

(北海道新聞)

学期ごとの検査だとか抜き打ちの検査で、金属探知器みたいなイメージでしょうか。

(法制・公務管理担当課長)

カメラが赤外線や電波を出すものがあるようなので、それらを見つける機器になっています。

(北海道新聞)

それを教室やトイレなどで使用して反応がないかを確かめるようなイメージですか。

(教育長)

カメラが設置されそうな場所で、今は穴が空いてないかどうかなど目視にとどまっているので、さらにそういう機器も入れて、綿密に調べていきたいと考えております。

(u h b)

道教委は、今回逮捕された教員について、教員採用試験で過去の経歴に問題がなかつ

たかどうかを調べることはしていなかったという理解でよかったですか。

(法制・公務管理担当課長)

採用選考の際に懲戒処分歴などは確認しておりますので、もしあれば、どういう処分理由かなど面接中で聞くことにはしております。

(u h b)

先ほどのお答えのように、今後は教員採用試験の中で過去の経歴に問題行為がなかったかを確認していく方針ということですか。

(教育長)

日本版DBSができれば、犯罪歴は我々もチェックできるようになります。

今でも採用の際には、もちろんそういう処分歴等がないか確認はしていますが、嘘をつかれてしまうと我々もそれ以上確認するための手立てがないというのが現状です。

(u h b)

なるほど、国のデータベースで確認はしていたということですか。

(教育長)

今までのデータベースは、あくまでも性犯罪によって教員免許が失効した人間のデータベースで、そこに該当あるなしはチェックしているのですが、その人個人に性犯罪歴があるかどうかは、これから日本版DBSで確認ができるようになってくるかと思っています。

(u h b)

教育長として率直に、根本的に教育現場のどんなところに課題があったとお考えですか。

(教育長)

やはり、日々、現場で子どもたちや保護者と接している教員は、しっかりした自覚をもって子どもたちを守るというのが一番大事な仕事だと思いますので、そうした自覚のもとに仕事をしているという前提で我々も考えてきたのがこれまでの取組だと思うのですが、やはりこうした卑劣な犯罪に手を染めるような教職員が現にいるということを今後は肝に銘じて、今回の検査や私物スマホの持ち込み禁止など、子どもたちの安全を守るために、もちろんほとんどの先生は自覚をもって仕事をしているのですが、そうじゃない人もいう前提の中で、いろいろな対策をこれから考えていかなければいけないというふうに思っているところです。

(u h b)

今回の事件を受けて、これまでいろいろな対策をされていると思いますが、教育長として、より具体的な、新しい対策について、もう一度お聞かせいただきたいです。

(教育長)

やはり今回の先ほどの探知器の話もありますし、検査の頻度を上げていくなどということもありますけれども、やはり一番大事なのは、教員の自覚を促すことで、そういったことをしてはいけないのは当たり前ですけども、教員としてそういうことをしたら、生徒や保護者に特に心理的にどういう影響があるか、それから、学校現場の同僚の先生、もっと言えば、北海道教育全体の信頼をおとしめる、さらに、場合によっては加害者のご家族にもいろいろ難しい影響が出てくる可能性もあるので、そうしたことをしっかり教職員の方々に意識づける研修を進めていきたいと考えております。

(読売新聞)

まずカメラ探知器について伺いたいのですが、14の教育局に配備して学校に巡回するような形で貸し出すという話でしたが、いつごろまでを目途に配備を目指すのか、機器の比較とか決定とかのプロセスもあると思いますので、そのあたりのスケジュール感を教えていただければと思います。

(法制・公務管理担当課長)

台数や機器の選定を今詰めているところでありまして、機能や価格など勘案しながら、なるべく早急に進めたいとしか申し上げられませんが、少なくとも来年度予算ということではなくて、今年度予算での対応を考えております。

(読売新聞)

この盗撮の事件を受けて、身体接触の件について千歳市教委の方からは報告がなかったということですが、千歳市教委に関しては事件を受けて確か記者会見を特にまだされてないのかなと思います。こうしたところを踏まえて対応が不十分かなとも思われますが、道教委から市教委への指導、助言は何かされているのかあれば教えてください。

(教育長)

今回の事件を受けてですね、我々も千歳市教委とは頻繁に情報交換、情報共有をしてきたところでございまして、おっしゃるとおり説明責任をしっかりと果たしていただきたいということで、助言させていただいたところでございます。記者会見はされてないと承知していますけども、保護者説明会の後に、ぶら下がり取材というような形で、対応

したというところが現実なのかなと承知しております。いずれにしても、今後とも千歳市教委とも深く連携しながら、対応させていただきたいと考えております。

(読売新聞)

22日付で市町村教委に懲戒に繋がるようなことがあればささいなことでも道教委に報告して欲しいとお伝えしたということですがけれども、これまで過去に疑わしい案件でも実は報告していなかったというものがあるかどうかという調査はかけられませんでしょうか。

(教育長)

今回、一斉調査みたいなものは想定していないですけれども、今回、疑わしいものがあったら報告してとしてくれというお願いをしているので、過去のものについても報告してもらうことを、我々としては想定しているところです。

(読売新聞)

想定されているということですがけれども、それは市町村教委もニュアンスとしてではなく、きちんと認識はされているのでしょうか。

(法制・公務管理担当課長)

共有が必要な情報があれば報告はしてくれるとは思いますが。

(読売新聞)

思うというのは道教委としてそう期待しているという感じに聞こえますが、ちゃんと市町村教委として、或いは学校として過去のものもきちんと振り返らなければならないので洗い出そうというようなところまで、しっかりとっているのか、お聞きしたいです。

(教育長)

我々も、今回の通知を踏まえて、当然そこまでやってくれるものだとは思っておりますけれども、改めて徹底したいと思います。

(STV)

今後の対応として、カメラの探知器とか、保護者に向けてのパンフレットというお話もありましたけども、保護者に向けてのパンフレットはいつごろまでに配布する予定で、具体的な内容がもし決まっていたらお伺いできますか。

(教育長)

早急にとは考えておりますけれども、これからいろいろ、専門家とも検討するなどしながら進めるので、はっきりは決まっていますが、なるべく早急にと考えております。

(S T V)

これも今年度中という認識でしょうか。

(教育長)

そうですね。できるだけ速やかにと考えておりますし、内容としても、例えばそういう案件があったら市教委に報告してほしいですが、我々も相談窓口を作っているので、どちらでもご連絡いただきたいというような趣旨になるのではないかと思います。

(S T V)

探知器の方は数に限りがあるからという話もありますけども、パンフレットの方は全道の保護者に向けてということですかね。

(教育長)

今は紙だけじゃなくて、タブレットに配信するとか、いろいろなやり方あるので、そういった手段も使いながら、全道の保護者の方々、それからお子様方に届くような形で考えております。

(S T V)

今日の会見の中でもDBSのお話が上がりましたが、来年の12月にこども性暴力防止法（日本版DBS）が始まるということで、こども家庭庁では学校に監視カメラを設置するよう推奨しているという話もありましたが、道教委では監視カメラの設置についてはどう考えていますか。

(教育長)

こういったいろいろな事件が起こる中で、性善説、性悪説ではないですが、やはり子どもを守るという観点で何が必要かしっかり考えていかなければいけないと思っておりますけれども、現時点で、監視カメラを設置しようという具体的な考えはまだ固まっておりません。監視カメラ設置によるメリット、デメリットなどしっかり検証しながら、検討していきたいと思っております。

(S T V)

カメラの探知器の使用に関しては、各学校の任意という形ですか。

(教育長)

そうですね。義務づけるということは今のところ考えていないです。使いたいというご希望のあるところに、数にやはり限りがあるので、順番にお貸ししていくという形になろうかと思います。

(STV)

台数に限りがあるというところはあるかと思いますが、やっぱり使った方が徹底的に探せるかなと思いますが。

(教育長)

目視に比べると、検査の精度は上がっていくのではないかなと思っております。

(STV)

そういった意味で、使用を推奨といいますか使ってくださいともうちょっと強く言ったほうがよろしいのでは。

(教育長)

数に限りが多分あるので、みんな一緒にというわけにはいかないことをご理解いただきつつ、新しく導入するカメラ探知器の効用をしっかりお伝えして、ぜひ使ってくださいという言い方にさせていただきたいと考えております。

(毎日新聞)

教員への研修というところと意識づけが重要だと思っているということですが、教員同士だからこそ、この人は大丈夫かというような、何かモヤッとしたものに気づけるタイミングがもしかしてあるのかなと思いますけれども。教員同士が不審な教員に気づけるような、監視といったら嫌かもしれないですけども牽制し合えるような、そういう風土づくりみたいなところも、その研修とかに盛り込む予定はあるでしょうか。

(教育長)

我々は今「こども真ん中」を掲げていろいろ進めている中で、やはり子どもを守るためには何が必要かと考えると、場合によっては今おっしゃられたような、教員間で「あの人ちょっとこういうことが…」という可能性もありますし、そういったものに対して我々は内部通報制度を設けておりまして、学校の内部で、例えばハラスメントですとか、不正行為とか、そういったものを見聞きした場合には内部通報窓口に報告いただけないという仕組みもあるので、そういったものを使って、気になった場合には、教えていただければと思います。

(毎日新聞)

一連の取組で予定しているものもあるということですが、一方で過去の懲戒処分対象が疑われるようなものの報告は、市町村教委が報告してくれると思っているということでしたが、再発を絶対許さないという気持ちで実効性をもって厳しくしていくというのが、少し足りないような部分も感じるところもありました。盗撮のカメラを見つけれたらいいというだけではなくて、深刻な性犯罪に繋がるような小さな事例も防いでいかないとけないと思います。不適切な声かけなどに対する厳しい姿勢のようなところを改めて伺いたいのですが、どういうふうに思っていますか。

（教育長）

やはり、子どもを守るということを1つ大きな旗印にして、みんながそれに向かって一生懸命取り組んでいくという中で、その先生方の意識の向上といったところはしっかり醸成していかなければいけないなと思っておりますし、一番キーになるのがやはり学校の中においては管理職の姿勢です。それぞれの学校の中で、そういうものに繋がるものも含めて絶対起こさないという認識を管理職が持って、それを学校の中に浸透させていくというのが学校単位の取組の中で必要だと思いますし、管理職がそういった気持ちになれるように、我々も研修或いは指導を含めて取り組んでいきたいと思っております。

（毎日新聞）

当然ですけど、こういう逮捕者だったり、子どもへのわいせつ行為、性犯罪という事例は出さないという気持ちですか。

（教育長）

もちろん、先ほど申し上げましたように名古屋の事件を知って私も非常に憤った記憶がございますし、やはりその子どもを守る立場の者が性犯罪を起こすことはあってはならないことだと思っておりますので、厳しく対応していきたいと思っております。

（読売新聞）

ちょっと細かいですが、当該教諭は、不適切な身体接触の事実があったのでしょうか。つまりどういう報告が本来上がってくればよかったのでしょうか。

（法制・公務管理担当課長）

これからの調査になりますが、事実確認ができなかったというふうに第1報で聞いています。

（読売新聞）

つまりその千歳市教委としては、身体接触の事実は確認できませんでした。それで、確認ができなかったことを、道教委に報告すべきなのか、それとも確認できなかったからしょうがないで終わるべきなのかというのが、多分、論点だと思いますけれども、今回の場合は、保護者からの指摘もあったわけですから確認できなかったことも含めてきちんと報告すべきだったというふうに考えているということですか。

（教育長）

はい。そのとおりです。おそらく、千歳市教委から我々のところに報告がなかった理由は、やはり確認できなかったので報告がなかったのではないかなと我々は思っているところでございまして、そうした意味では、確認ができなかったにしても保護者或いは生徒からこういう話があって、こういう調査をしたけれども確認できなかったという報告をしていただき、我々の方から、もう一度、別の視点から調査していただいたり、実際確認をさせていただくという余地もあろうかと思しますので、今おっしゃる通り、確認ができなかったものも含めて、報告をこれから、お願いしたいということで、通知したところです。

（読売新聞）

学校とか市町村の教育委員会では、多分、たくさん保護者からの指摘を受け、調査など、いろいろ対応していると思うので、全部、道教委に報告するのは多分不可能だと思いますが、どういうものなら報告すべきなのかっていうのがちょっと判然としないですけれども、子どもへの不適切な身体接触というのはやっぱり、いろいろなクレームの中でも重要だと考えているということなのですか。

（法制・公務管理担当課長）

千歳市からこれから報告を受ける中で、問題点などはあると思うのでそれを踏まえてになるかと思います。ただ1つ、おっしゃるとおり、委員会で終わって、事実確認ができなかった事例が相当数あるのかなと思います。学校現場はどうしても生徒と先生の距離が一般社会よりは近いところもあるので、過失の接触だったりとか理由がある接触もあるかもしれないし、事実確認ができないという場合もあるし、線引きは難しいかなと思います。千歳市の事例を含めて検討しなければならないと思います。

（読売新聞）

この先生が、今回こういうことをしていたことで、まだ容疑ですけど、逮捕されているのが明らかになったわけですが、これを予想とか予見できた可能性は道教委としては現状なかったという認識なのですかね。

（教育長）

もし、不適切な接触について報告があつて、ただそれがあつたからといって盗撮というところに直結するのはなかなか難しいと思いますけれども、そこで例えば、何か事実確認ができて、これは全部タラレバの話ですが、そこで処分していれば、もしかしたら、抑止できたかな、これはあるかもしれないなと思います。

(読売新聞)

さきほど、他県の学校で採用されたり、また北海道に戻ってきたりとかというのがありましたけれど、経緯の中にもそういった不祥事みたいなものは把握してないということですよね。

(教育長)

個人の事情で転居して、仕事先を変えているという理解をしておりました。

(釧路新聞)

さきほどの「探究コンテスト」、これはポスターのコンテストですか。

(教育長)

S N S の被害者にも加害者にならないためというテーマのプレゼンの内容を皆さんに作成していただいて、今回、受賞作品を発表させていただきました。

(釧路新聞)

プレゼンですか。その辺について書いてないものだから、ポスターなのか、いわゆる動画なのか、なんかよく分からなかったです。

(教育長)

そうですね。失礼いたしました。

(釧路新聞)

何分ぐらいの内容ですか。

(生徒指導・学校安全課)

大体5分ぐらいです。

(教育長)

明後日、共済ホールで根室高校にプレゼンしていただきますので、もし、ご興味がありましたら、お越しいただければと思います。

(釧路新聞)

「さんフェア」ですが、29校が参加するということですが、これは29校ともイオン6店舗に揃うのですか。

(教育長)

29校が、それぞれ各地域の6店舗に分かれて参加して、自分たちで作った農産物や加工品の販売をします。

(時事通信社)

千歳の教員の逮捕の件で、今後の対策で相談窓口の設置っていう話もあったと思いますけれども、これまでの窓口もすでに設置されていて、別に新たにということですか。

(教育長)

新たに設置するというのではなくて、これまでもありましたが、それをさらに、保護者の方々を含めて周知を徹底していくということです。

(時事通信)

これまでの窓口はどこに設置されていますか。

(法制・公務管理担当課長)

生徒指導・学校安全課で相談窓口を設置しています。

(教育長)

実際に人が窓口に来て座って待機しているというよりは、ホームページで相談を受けて対応していくというような相談窓口です。

(時事通信)

カメラ探知器について確認だけさせてください。他県の事例、先行事例で何か参考にしたようなところはあったりしますか。

(教育長)

そもそもそういうカメラ探知器があるということ自体、我々も元々知らなかったもので、そういう、他県で導入しているということも踏まえてですね、価格ですとか、機能などといったことを調べて、これから導入しようとしているところです。

(時事通信)

わかりました。ちなみに、どことどこを参考にしたとかという例はありますか。

(法制・公務管理担当課長)

横浜市がまず先行していたので見ましたが、どこを参考にしたということはありません。

この文章については、読みやすいよう、重複した言葉づかい、明らかな言い直しなどを整理して作成しています。

(文責 教育政策課)